

～1987年～38年間、京都の医療や介護のなかまの声を行政に届け続けてきた～

2025いのちまもる キャラバン行動



約1ヶ月に渡って訪問したキャラバン行動。11日間で33コースに16組合・延べ78人が参加。
訪問先は330ヶ所（医療機関157・介護施設80・地区医師会24・医療関係団体等8…）
懇談は137ヶ所を実施し、要請書は国が71組織、京都府は70組織が賛同。

厚労省に要請書提出



8月20日、皆さんに集めてもらったキャラバン要請書（71通）を厚労省に提出しました。提出にあたっては、物価高騰や人件費上昇に対応できない医療・介護の深刻な経営状況、慢性的な人員不足と離職が止まらない現場の実態を伝えました。あわせて、来年の診療報酬改定や介護報酬の期中改定の引き上げ等、キャラバンで寄せられた意見や要望を届けました。さらに、高騰している紹介予定派遣の手数料については、厚労省は実態調

査を実施したものの、その結果が政策に十分反映していない点を指摘しました。

京都府に要請書提出

8月28日、京都府にもキャラバン要請書（70通）を提出し、懇談を行いました。懇談では、府は「報酬改定は国の責任」としつつ、国の施策である処遇改善支援、就職フェア・高校生対象の体験セミナー、京都府介護・福祉職場業務改善支援センターを立ち上げての「テクノロジー支援導入等」、災害時の医療体制強化などの取り組みを紹介。医労連側は「募集しても人が来ない」「介護は深刻で外国人頼みも定着しない」「老朽化した病院の建て替えの費用もなく、入院機能を廃止している」「資金ショート寸前の病院もある」と訴え、中堅層の賃金低下や看護学校廃止、病床削減を推進する「病床数適正化支援事業」への懸念も表明しました。府は「予算を活かし地域と連携を進めたい」と応じ、課題共有を確認しました。



参加された組合員のみなさん 賛同いただいた病院・施設のみなさん
ご協力ありがとうございました。